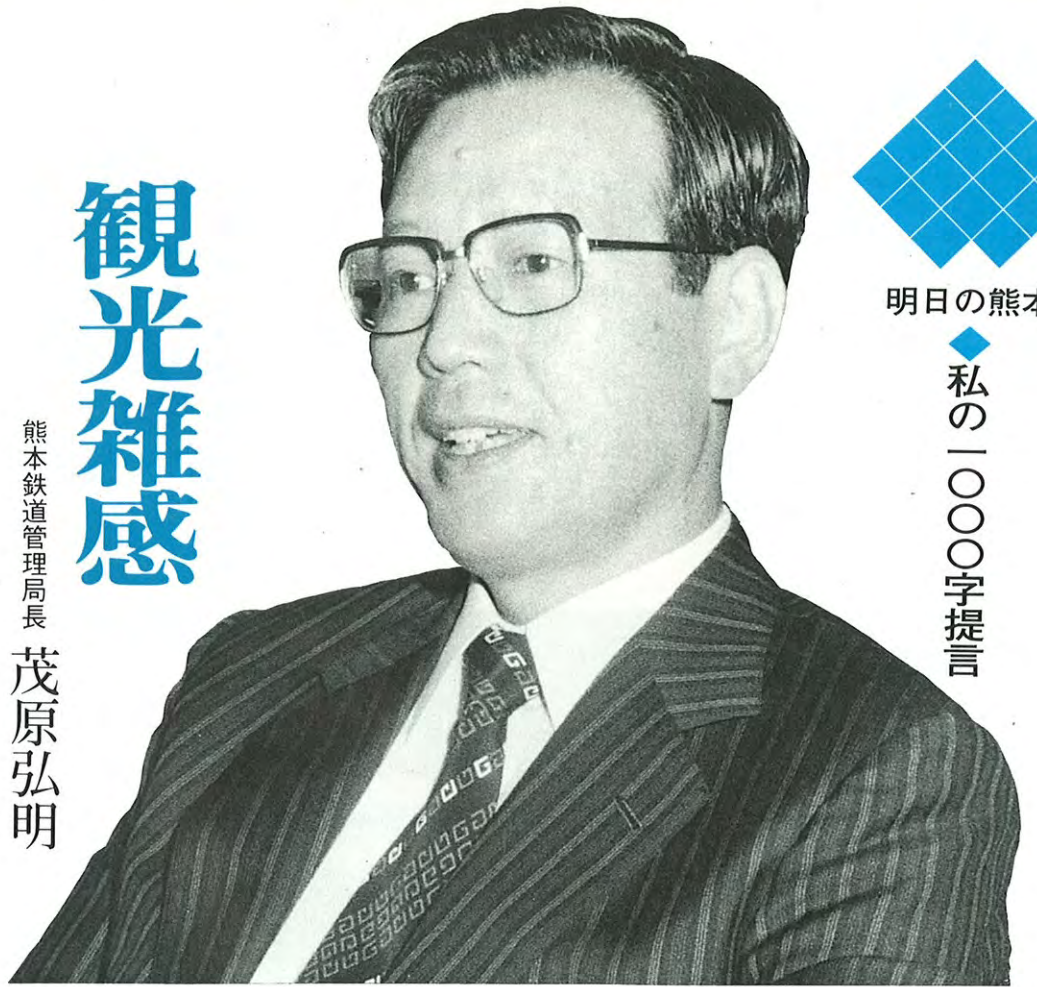


明日の熊本

私の1000字提言



熊本鉄道管理局長 茂原弘明

# 観光雑感

最近のような気忙しい世の中で生活していると、誰しもほっと一息抜きたくもなる。

その時、いつもの生活空間とは全く別の異文化に接してみたいとか、いつも見ているものとはがらりと違った風景の中に身を沈めてみたいと思うことがある。

観光とか保養とかは最も人間的な行動であり、従って、生半可な観光産業はやがて淘汰されてしまうに違いない。その意味で名所旧跡巡りといった従来型の観光の場合、国内旅行が海外旅行と競争するのは容易なことではない。その上、国内観光地相互の競争は激しく、一刻の油断もできない厳しい状況にある。

熊本の場合、今のままだと、観光はすれども宿泊せずといったパターンが定着してしまうのではないかと危惧している。

☆ 昨年度の一年間に観光客が県で落した金は千五百億円にもなると推定されている。これは農業粗生産の三千七百億円、寿屋の二千四百八十六億円の売り上げには及ばないものの、売り上げ第二位の九州日本電気の五百五十四億円と比べると観光産業がどんなに大きな産業であるかが判るといえる。しかも熊本県の場合、特に地場産業との相関という点で、これ程強い産業はほかにない。ぜひとも大事にしていきたいものである。

☆ また一流企業人、学者、芸術家などといった人達が好んで来熊するとならば、彼らがつ新しい高度な情報に容易に接することが可能となるであらう。

この際、観光産業がもたらす有形無形の利益をあらためてかみしめ、積極的に育成する気運が高まることを期待している。

☆ 信州 佐久の生まれのせいかわ、夏という軽井沢を思い出す。この町は人口一万三千人のちっけな町で、保養地として発展しなかつたら、今頃は過疎化が進み、住む人がいなくなつたかも知れないような土地である。ここに熊本県を訪れる全観光客の三分の一に相当する人達が訪れるのである。

☆ 東京に近いと言っても交通は国鉄の在来線と国道だけで、航空機を利用して阿蘇に来ると時間的には大差ない。

☆ 狙いどころは、女性、子供、若者にあるように思う。例えば、都内にある小、中、高校などの夏期鍛練用の寮が九十九、会社の寮が六百七十二、夏にはそれがフルに回転している。最近とみに若い女性に人気のあるテニスを狙って、八百七十三面ものコートがあること、スケート場、乗馬、アーチェリー、フィールドアスレチックなど、その手のものは数え上げればキリがない。それらが集合・集積されているところがミソである。

熊本には新幹線こそないが、空港、高速道路は整備され、高速交通機関には恵まれている。阿蘇のようなりゾート適地を未開発のまま遊ばせておくのは、あまりにももったいない気がしてならない。

## ボランティア活動

### 大江高校『楽寿会招待会』 世代を超えて

# 楽しいひととき。

熊本市南高江町の大江高校（生徒数約六百名）では十八年前から毎年生徒会が中心となって、地元川尻の老人会「楽寿会」のお年寄りとの交歓会を行っている。

今年も六月十一日（土）、百五十人のお年寄りを学校に招待した。この行事は今ではすっかりお年寄りの楽しみ場となっており、この日のために練習してきた詩吟、長唄



などが披露されたが、今年はジャズダンスまで飛び出した。お年寄りに圧倒されながらも、高校生たちの催しものもくりひろげられ、合間には肩もみやお茶の接待もあり、終始拍手や笑い声が絶えなかつた。

また、地元商店街からも毎年、菓子、飲み物、景品の差し入れが相次ぎ、お年寄りと高校生の温かい交歓会に花を添えてくれる。



お年寄りにお茶のサービスをする高校生たち